

<専門分野>

精神看護学実習

目 的

精神障害をもつ対象の特性を理解し、生活者としての自立に向けて看護を実践できる能力と、対象を一人の人間として尊重する態度を養う。

目 標

1. 精神障害をもつ対象の生活歴やストレングスを把握し、身体・精神・社会的側面から総合的に理解できる。
2. 対象のセルフケア能力を判断し、地域での生活を見据えた日常生活援助が実践できる。
3. 患者－看護者間の相互作用の中で自己の傾向に気づき、対象の人格を尊重して治療的な対人関係を構築できる。
4. 精神障害をもつ対象の人権擁護の重要性を理解できる。
5. 精神保健医療福祉サービスの役割や援助の実際・連携を学ぶことができる。
6. 精神障害をもつ対象が、地域で生活していくために必要な支援と課題について理解できる。

内 容

<病棟・デイケア>

1. 精神障害をもつ対象の理解
 - 1) 発病に至った経緯について、発症の時期や症状・治療経過にとどめず、生ประวัติや生活歴、家族背景、社会性、生活環境など広く情報を得て、精神に影響を及ぼす要因について考える
 - 2) 対象の治療目的・方法・内容を理解する
 - 3) 対象に現れている精神症状（意識・知覚・記憶・思考・知能・感情・意欲と行動・自己概念の異常）と状態像を解釈する
 - 4) 健康な精神活動を把握する
 - 5) 対象の反応の意味を、精神状態・心理過程・生活背景等と関連させて考える

2. 日常生活援助の実践

- 1) コミュニケーション技術を応用し、対象との対人関係を構築する
- 2) 対象のセルフケア能力をアセスメントする
- 3) 患者や家族の希望・治療方針等を踏まえた目標を設定する
- 4) セルフケアレベルに応じた援助を考える
- 5) 対象の状態を考慮し、セルフケアへの援助を行う

3. 精神科看護の特徴の理解

- 1) 離院・自傷・他害・自殺などを防ぐための配慮、人権への配慮を理解する
- 2) 療養の場・生活の場としての環境と看護師の役割について理解する
- 3) 精神科リハビリテーションについて、治療的効果と援助の在り方考える

4. 自己理解

- 1) プロセスレコードや日々の記録を通して対人関係における場面を振り返り、自己の感情や行動の傾向に気づく
- 2) 対人関係における自己課題について明確化する

5. デイケアの役割と機能の理解

- 1) デイケアの目的、メンバー構成、プログラムと期待される効果、多職種連携
- 2) 精神科リハビリテーションの実際から、精神症状の観察を行い効果を考える
- 3) 看護師の役割、症状悪化時の対応および援助内容

<就労継続支援 B 型事業所>

1. 施設の役割と機能の理解

- 1) 支援の実際
- 2) 医療・福祉の連携

2. 就労継続支援を利用している精神障害をもつ対象の理解

- 1) 地域での生活状況および通所の目的
- 2) 実際の場面から、地域で生活している精神障害をもつ対象が、自立して社会生活を営むための支援の必要性について考える

<地域生活支援センター>

1. 施設の役割と機能の理解

- 1) 施設の設置目的、運営、構成人員、援助内容

2. 地域で生活する精神障害をもつ対象を支える福祉サービスの理解

- 1) 日中活動や住まいの場に関する支援
- 2) セルフケアへの支援
- 3) 相談支援
- 4) 権利擁護

3. 地域で生活する精神障害をもつ対象の理解

- 1) 日常生活の様子と支援の状況
- 2) 生活への希望の理解
- 3) 地域で生活するために必要な支援について考える

方 法

1. 実習開始前に、学内にてオリエンテーションを受ける。
2. 学内実習
ねらい： 実習の目的・目標・内容・方法を再確認すると共に、精神看護学実習をイメージ化することで、実習の準備性を高める。
 - 1) 『目で見える精神看護－VOL.2 精神看護実習』のDVD視聴。
 - 2) 病棟および施設実習のスケジュールと留意点について説明を受ける。
 - 3) DVDを用いてシミュレーション学習を行う。
 - 4) 精神科リハビリテーションや就労および生活支援の必要性についてグループワークを行う。
3. 病棟実習・デイケア
 - 1) 実習開始前に病院オリエンテーションを受ける。
 - 2) 病棟オリエンテーションを受ける。
 - 3) 以下の条件を可能な範囲で考慮し選定された患者1名を受け持つ。
 - (1) 閉鎖病棟に入院中で7日間受け持つことが可能であること
 - (2) 精神症状が比較的とらえやすく、日常生活への影響が見えやすいこと
 - (3) 患者の示す行動の意味をとらえやすいこと
 - 4) セルフケア評価表に基づいて看護を実践する。
 - 5) テーマカンファレンスを開催する。
 - 6) 病棟で行われる作業療法や行事に参加する。
 - 7) 病棟実習期間中のうち半日デイケア実習を行う
 - (1) オリエンテーションを受ける。
 - (2) デイケアの日課・役割分担に沿って、利用者とともに行動する。
 - 8) 病棟実習終了後は「精神科看護を実践して学んだことと看護の役割」について実習レポート用紙に記載する。
4. 就労継続支援B型事業所
 - 1) 施設内の日課・役割分担に沿って、利用者とともに行動する。
 - (1) 利用者とのコミュニケーションをとり、地域での生活状況や利用目的を理解する。
 - (2) 利用者への支援場面を見学する。
 - 2) ミーティング・交流会に参加する。
 - 3) 最終日にカンファレンスを開催する。
5. 地域生活支援センター
 - 1) 地域生活支援センターの概要について説明を受ける。
 - 2) グループホーム、就労支援事業所などを見学する。
 - 3) 利用者へインタビューを行う。
6. 就労継続支援B型事業所・地域生活支援センター実習終了後
 - 1) 「地域で生活する精神障害をもつ対象に必要な支援と課題」について考察し、実習レポート用紙に記載する。

精神看護学実習評価表

《市立釧路総合病院3F 病棟・デイケア》

実習期間 月 日～ 月 日 番 氏名

項 目		A	B	C	D
1	対象の病態と経過、行われている治療（薬物療法・リハビリテーションなど）が理解できる。	5	4	2	0
2	対象の反応の意味を、精神状態・心理過程・生活背景などと関連させて解釈できる。	4	3	2	0
3	対象の精神状態を健康的な側面にも注目し、日々アセスメントできる。	5	4	2	0
4	対象の日常生活を観察し、精神症状や身体機能を踏まえてセルフケア能力をアセスメントできる。	4	3	2	0
5	入院前までの歩み、現在の状態、援助の方向性等を踏まえて、全体像および適切な長期目標を設定できる。	4	3	2	0
6	対象の状態を考慮しながら、意図的に関わり援助を实践できる。	5	4	2	0
7	セルフケア評価表に基づいて実施した援助を対象の反応から評価・考察できる。	4	3	2	0
8	患者の状態に応じてセルフケア評価表の追加・修正を行い、必要な援助が述べられる。	4	3	2	0
9	対象に関心を持ち共感的態度で接することができる。	4	3	2	0
10	自分自身の思考・感情・行動と対象の反応を踏まえて、関わりを振り返り、自己理解および自己の課題が述べられる。	5	4	2	0
11	安全や人権への配慮を踏まえ、療養の場・生活の場としての環境と看護師の役割について述べられる。	4	3	2	0
12	精神科リハビリテーションによる対象の反応から健康的側面を理解し、援助の必要性が考察できる。	4	3	2	0
13	精神科デイケアの機能とプログラムの期待される効果を踏まえ、看護の役割が述べられる。	4	3	2	0
14	体験や実践を通して学びを振り返り、精神科看護の役割および自己の課題について述べられる。	4	3	2	0
<評定尺度> A: 少しの指導でできた C: 繰り返し指導を受けて少しできた B: 指導を受けながらできた D: 繰り返し指導を受けてもできなかった		合計	/60		

《就労継続支援B型事業所・地域生活支援センター》

項 目		A	B	C	D
1	就労継続支援事業所の実際の場面から、日常生活の様子や利用目的を理解できる。	3	2	1	0
2	就労継続支援事業所の役割を踏まえ、地域で生活している精神障害をもつ対象が自立して社会生活を営むための支援が述べられる。	4	3	2	0
3	地域生活支援センターにおいて、精神障害をもちながら地域で生活する対象の様子や生活支援の状況が述べられる。	4	3	2	0
4	地域で生活する精神障害をもつ対象に必要な支援と課題について自己の考えが述べられる。	4	3	2	0
<評定尺度> A: よくできた B: できた C: 少しできた D: できなかった		合計	/15		

《態度》

項目		評価のポイント	A	B	C	D		
前に踏み出す力	1 主体性	・ 指示を待つのではなく自らやるべきことを見つけ、積極的に取り組める	4	3	2	1		
	2 実行力 働きかけ力	・ わからないことをそのままにせず、タイムリーに指導者や教員、スタッフ、実習メンバーなどに確認し、解決に向けて取り組むことができる ・ 患者によりよい援助を実施するために、指導者や教員、実習メンバーなどに働きかけることができる ・ 積極的に技術を習得できる	4	3	2	1		
考え抜く力	3 課題発見力 計画力 創造力	・ 実習を客観的に振り返り、自己の課題を述べるができる ・ 課題解決に向けた案を複数考え、それを遂行するための準備ができる ・ 実習全体および日々のスケジュールを常に把握し、優先順位を考えて行動できる ・ よりよい援助の方法を探求し、取り入れることができる	4	3	2	1		
チームで働く力	4 発信力 状況把握力	・ 優先順位を考慮し、簡潔明瞭に報告・連絡・相談ができる ・ 自分のできること、できないことを判断し対象、実習メンバー、実習指導者、教員、スタッフなどの状況を踏まえた行動ができる	3	2	1	0		
	5 傾聴力 柔軟性	・ 他者の意見や立場を尊重できる ・ 指導者や教員、実習メンバーからの意見や助言を最後まで聞き、相手の意見を正確に理解できる ・ 相手にとって話しやすい状況をつくり、相手の意見を引き出している	3	2	1	0		
	6 規律性 ストレスコントロール力	・ 様々な場面で良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守ることができる ・ 周囲に迷惑をかけたとき、誠実に対応できる ・ チームの一員と対象への責任をもち、周囲の協力も得ながら心身の体調管理ができる	3	2	1	0		
	7 倫理性	・ 対象のプライバシーを守り、個人情報の保護に努めることができる ・ 適切な言葉遣いで、状況に応じた行動ができる ・ 対象を主体とした関わりになっているか常に考え行動できる	4	3	2	1	合計	/25

<評定尺度>

A：少しの指導でできた

C：繰り返し指導を受けながらできた

B：指導を受けてできた

D：繰り返し指導を受けて少しできた

実習指導責任者 _____

担当教員 _____

総合点	
-----	--